

研究主題 自分のももの見方や考え方を広げることができる国語科学習の指導の在り方

— 中学校第1学年「江戸からのメッセージ」における建設的に批判しながら読む学習活動の工夫を通して —

神栖市立波崎第二中学校（平成19年度） 篠塚 一典

研究の概要及び索引語

もの見方や考え方を広げることができるようにするためには、文章に表れているもの見方や考え方を理解し、共感したり批判したりしながらより豊かなもの見方や考え方を形成していく学習活動が必要である。本研究では、説明文「江戸からのメッセージ」において、読み取った筆者の結論に対する根拠の適否を考え、建設的に批判する学習を通して、もの見方や考え方を広げる国語科学習の指導の在り方を究明する。

索引語： 中学校，国語，もの見方や考え方，批判，説明文

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説 - 国語編 - (平成11年9月告示 平成16年5月一部補訂 文部科学省) (以下、解説と表す。)「読むこと」の第1学年の目標は、「様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみもの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。」である。そのためには、「文章に表れているもの見方や考え方を理解し、自分のももの見方や考え方を広げることが必要であると述べている。もの見方や考え方については、書き手の「もの見方や考え方を発見したり、共感したり批判したりしながら、読み手はより豊かなもの見方や考え方を自分自身の内部に形成していく」ことの必要性を併せて述べている。共感したり批判したりして読むことは、PISA型読解力を目指す「読解力向上に関する指導資料」(平成17年12月文部科学省)の指導の改善の方向、の内容「自分の知識や経験と関連づけて建設的に批判したりするような読み(クリティカルリーディング)を充実する」と関連するものである。このことから、読むことにおいては文章の内容を正確に理解するだけでなく、共感したり批判したりしながら、自分のももの見方や考え方を広げられるようにすることが大切であると考え。

生徒の説明文に関する調査(平成19年10月18日実施、第*学年*組*人)では説明文を読む際の意識として「筆者の根拠に対して疑いをもつことなく読んでいる」と答えた生徒が*人、「説明文に書かれている内容は正しいものだと思っている」と答えた生徒が*人であった。また、「未来を開く微生物」における筆者の考えに対して書いた意見文を見ると作品の内容は正確にとらえているものの根拠の羅列のみで終わってしまっている生徒が*人、筆者の考えに対する根拠にふれず感想や考えのみを述べている生徒が*人、筆者の考えや根拠

にふれながら自分の考えをまとめている生徒が*人であった。これは、今までの指導において文章の内容の正確な理解を重視し、建設的に批判しながら読む指導を行ってこなかったことが一因であると考えられる。

そこで、本研究では「江戸からのメッセージ」において、筆者の考えや根拠としているものを建設的に批判しながら読む学習を行う。まず、本文を読む前に筆者の考えの中心である「心の豊かさ」というものに対して自分の考えをもつ。次に、筆者の結論とその結論の根拠となる部分を正確に抜き出した後、根拠の適否について考える学習を行う。その際には、筆者があげた根拠の適否について考えることができるワークシートを活用する。また、全体での話し合いでは、適切な根拠を選び容易に示すことができるように短冊を動かしながら比較検討する。終末には、自分自身のものの見方や考え方の広がりや自覚できるように、読んできたことを踏まえて自分の学習前の考えを再構成する。

このように建設的に批判しながら読む学習活動の工夫を通して、自分のものの見方や考え方を広げることができるようにしたいと考え本主題を設定した。

2 研究のねらい

中学校第1学年「江戸からのメッセージ」における建設的に批判しながら読む学習活動の工夫を通して、自分のものの見方や考え方を広げることができる国語科学習の指導の在り方を究明する。

3 研究の仮説

中学校第1学年「江戸からのメッセージ」において、建設的に批判しながら読む学習活動の工夫をすれば、ものの見方や考え方を広げることができるであろう。

4 研究の内容

(1) 基本的な考え方

「ものの見方や考え方を広げる」について

解説では、ものの見方や考え方を広げることについて、最終的にものの見方や考え方を深めることをねらいとし「文章の記述に即してものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方と対比させることで文章から新しい発見をしたり、自分自身の主体的な判断を確かめたりできるよう

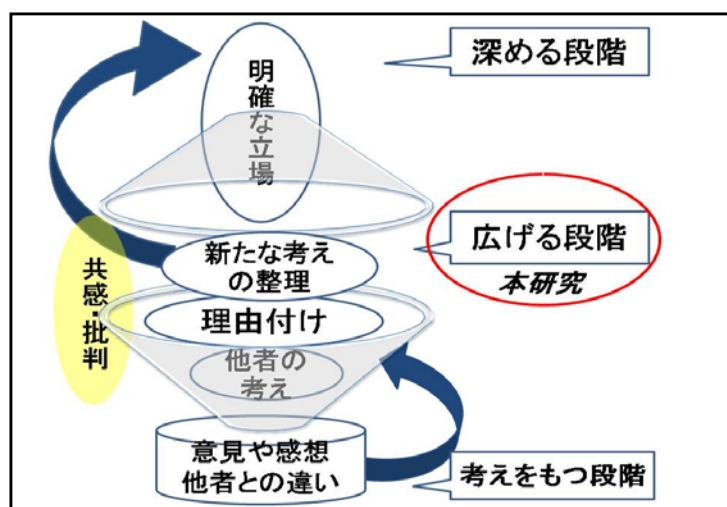


図1 豊かなものの見方や考え方を形成する段階

にする」ことと述べている。また，図1に示したように豊かなものの見方や考え方を形成する段階として，小学校中学年では，自分なりに意見や感想をまとめ，高学年では事象と感想，意見の関係を押さえ，自分の考えを明確にして読むこととなっている。中学校第1学年では，ものの見方や考え方を広くし，第2学年及び第3学年では，ものの見方や考え方を深めることをねらいとしている。最終的な姿としての深めるとは，多くの情報から必要な情報を取捨選択し，自分の立場を明らかにしていくことであり，第1学年における「ものの見方や考え方を広げる」はその前段階である。

このことから，ものの見方や考え方を広げることを単に筆者の考えを読み取って知識を増やすのではなく，書かれている筆者の考えや根拠を検討し，新たな自分の考えをもつことであるととらえた。

建設的に批判しながら読むことについて

「読解力向上に関する指導資料」では，建設的に批判しながら読むことについて「テキストの内容や表現を吟味・検討したり，その妥当性や客観性，信頼性を評価したり，自分の知識や経験と結び付ける」と述べている。これは，「ものの見方や考え方を広げる」ための手だてとなると考える。

また，田近洵一氏（「『読解力』向上の鍵は『思考』にある」）は読むことの学習について「思考のはたらきとしての読みは，テキストの言葉と関わって，そのはたらきに気づき，その意味を問い，自分なりに受けとめ，さらにそれをめぐって思うところに成立する。これらの活動は，言語テキストと関わって，それを構成する言語を認知し，その意味するものを読み解いて読者なりにそのはたらきを受けとめ，自らの内にまとめた思想内容を形成していく一連の行為であって，その行為自体，『思考活動』なのである。そのことを念頭において，表1 ものの見方や考え方を広げた生徒の姿

読解の学習はできるだけ読みの意識を触発し思考力をはたらかせるような活動を学習活動として設定する必要がある。」と述べている。これは建設的に批判する読みと相通ずるものである。

筆者の根拠に対して，理由付けをしながら適否を考えている。

他者の考えと比較して新しい考えをもっている。

学習で得た新しい考えを整理している。

以上のことから，建設的に批判しながら読む学習活動を通してものの見方や考え方を広げる生徒の姿を表1のようにとらえた。

(2) 主題に迫るために

ものの見方や考え方を広げることについての生徒の実態

本学級の生徒を対象に，「ものの見方や考え方を広げること」に関する調査を行った。

図2で示したように，これまでの説明文の学習においては，結論の部分がどこにあるのかは全員がとらえ，筆者の考えについても23人が理解すること

ができていた。しかし、過去の学習で書いた生徒の意見文を分析すると、根拠の羅列のみで終わっていたり、筆者の考えに対する根拠にふれずに感想や考えを述べていたりする生徒が*人、筆者の考えや根拠にふれながら自分の考えをまとめている生徒は*人であった。また、図3の質問より、筆者の根拠に対して疑いをもつことなく読んでいる生徒が*人、質問より、説明文に書かれている内容は正しいものだと思っている生徒が*人であった。さらに、質問より、学習後、筆者の考えを参考にしながら自分の新しい考えをもつことができると答えた生徒は*人であったが、前述の意見文の分析からそれは作品に基づいていない考えや自分の感想を述べるのみにとどまっていることが分かった。

グラフは掲載せず

図2 筆者の考えや根拠をとらえることについての実態
(平成*.*.*実施 **中学校第*学年*組*人)

グラフは掲載せず

図3 説明文を読む際の意識
(平成*.*.*実施 **中学校第*学年*組*人)

これらのことから、書かれている内容は正確に読み取ることにはできても、建設的に批判しながら読むことはできていないことが分かる。

ものの見方や考え方を広げる手だて

本学級の生徒は小学校段階における「感想や意見をもつ」、「事象と感想、意見の関係を押さえる」ことについては身に付いている。しかし、書かれている内容をそのまま受け入れてしまい、建設的に批判しながら読むという面に欠けている。このことから、ものの見方や考え方を広げるためには「筆者が述べている結論の根拠を的確にとらえる」、「その根拠が筆者の結論を説明するために適しているものなのかどうかを考える」、「さらに、グループや全体での検討で、自分とは別の考えにふれながら新たな自分の考えをまとめていく」、「学習したことを整理し自分の考えをまとめる」という学習活動を行う必要があると考える。

ア ワークシートによる学習

本学習は根拠の適否を考えることを通して、建設的に批判しながら読む学習である。根拠とは、筆者が結論を読者に納得させるための具体的な言葉・

叙述である。まず，問題提起と結論に注目して根拠を正確にとらえる。その根拠の適否について考える過程において，自分が考えていることを視覚的にとらえ，考えの変化に対応することができるように「動きのあるワークシート」を活用する。

筆者の根拠は，黄色のラベルにまとめ，結論を導き出す上でより適していたり，説得力があったりする根拠を上方に移動する。また，提示されている順番についてもラベルを自由に動かし，より効果的な提示の順番についても考えることができるようにする。根拠を位置づけた理由については表2の視点を常に掲示し，それをもとにピンクのラベルに記入し，筆者の根拠と区別できるようにする。また，筆者とは違う根拠を考えた場合には，青のラベルに記入してワークシート上に添付する。全体発表の際にはワークシート上の動きを短冊黒板を使用し，再現しながら発表できるようにする。

イ 友達の考えと比較できる話し合い活動

ものの見方や考え方をより 表2 学習を進める上での生徒の視点

一層広げるために，グループでの話し合いによる検討，全体での発表を行い，他の生徒の考えを参考にできる場面を設ける。

個人で根拠の適否を考える際にも一定時間自分で検討し

た後，机間を自由に動き，他の生徒の考えを参考にできるようにする。グループで検討し，グループ案をまとめる過程においても，話し合ったことを参考に自分のワークシート上の根拠を動かしていく。さらに，全体発表の場においては，それぞれのグループがまとめた案を提示し，その発表内容を聞きながら自分の考えを比較検討できるようにする。また，比較検討する際には常に筆者の根拠を取り上げながら見方や考え方を広げていけるよう表2の4つの視点に基づいて行うようにする。

このように，個人から集団，集団から個人という形態を通して，自分のものの見方や考え方を広げることができるようにする。

ウ 自分の考えを整理する意見文を書く学習

「読解力向上に関する指導資料」では，「読解にあたっては，単に読んで理解するだけでなく，テキストを利用して自分の考えを書くことが求められる。」とある。

このことからワークシート，グループでの話し合い，全体発表，それぞれの学習活動で得た新たな考えを整理し，自分のものの見方や考え方を明確にしておくことが必要である。

そこで，根拠の適否について考えるのみではなく，ワークシートの活用やグループでの話し合い，全体発表で得た筆者の根拠に対する新たな自分の考えを整理し，意見文を書く時間を設定する。

もし，自分が「心の豊かさ」を筆者の立場で述べたらということを考える。

読者が納得したり信頼したりできるかについて考える。

もっと分かりやすい根拠はないかを考える。

今までの体験などから考える。

(3) 授業実践

単元名 「江戸からのメッセージ」 今に生かしたい江戸の知恵
指導計画（7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	1	1 教材文にかかわった内容について自分の考えをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文章の組み立てに注意して読み、学習の見通しをもとう。</div> 2 形式段落を意識しながら教材文を通読する。 3 今後の学習展開を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えである「心の豊かさ」について、学習前に自分の考えをもち、生徒の関心を高める。 ・全体が十六の形式段落からなることを押さえ、問題提起の段落と筆者の考えが述べられている段落を確認しながら、通読することができるようにする。 ・今後の学習の展開を確認し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 	関 「心の豊かさ」について自分の知識や経験をもとに、自分の考えを書いている。（作文シート）
2	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">問題提起、筆者の考え、根拠をワークシートにまとめよう。</div> 1 問題提起、筆者の考え、根拠を区別し各段落の内容を読み取る。 2 問題提起、筆者の考えをワークシートに記入する。 3 根拠をラベルに記入し、ワークシートに並べて貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を確認し、各段落の関係に注意し、問題提起、筆者の考え、根拠をそれぞれ区別できるようにする。 ・問題提起と筆者の考えの間に根拠が並んでいるという、尾括型の本文の構成を理解させる。 ・根拠を記入したラベルを動かしながら考えるという次時の学習の見通しをもたせる。 	読 教材文の構成を確認するために問題提起、筆者の考え、根拠をしっかりと区別してワークシートに記入している。（ワークシート）
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読み取った根拠が適切かどうか判断してみよう。</div> 1 筆者の考えに対する、根拠の適否を判断して、ラベルを動かす。 3 2 完成した個人のワークシートを参考にして、さらに検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・適否についての理由が全くの主観にならないように例をあげながら説明する。 ・根拠を位置づけた理由を必ずピンクのラベルに記入し、自分の考えをもつことができるようにする。 ・自由に友達のワークシートを見ながら友達の考えで良いと思うものは積極的に取り入れ、さらに、ラベルの位置や内容を検討するよう指示する。 	読 適否の理由を客観的に考え、ラベルを動かし自分の考えをまとめ、友達の考えを積極的に取り入れようとしている。（ワークシート） 言 段落相互の関係を適否の判断に活用している。（ワークシート）
3	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループで各自のワークシートを検討しグループ案をつくらう。</div> 1 グループ内で互いのワークシートを検討し相互評価する。 2 互いのワークシートからグループ案を検討し、発表の準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で相互評価を行い、その評価をもとにグループ独自の案を発表用ワークシートにまとめることができるようにする。 ・グループ案をまとめるために、司会や記録などの役割分担をしっかりと行い、検討が速やかに行われるようにする。 ・発表者や発表の方法を事前に決めておき、短冊の動かし方などを確認しておくことを助言する。 	読 グループ内での相互評価をもとにグループ独自の発表用ワークシートをまとめ、発表の準備をしている。（発表用ワークシート） （相互評価表）
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">各グループで検討された案を聞き、自分の考えと比べよう。</div> 1 発表会を開き、グループ案を相互評価する。 2 学習を終えての自分の考えと学習前の自分の考えを比べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表を聞き、評価しながら聞くことができるようにする。 ・発表者には、自分達のグループが検討の過程で一番問題になった点について説明するよう指導する。 ・「心の豊かさ」について改めて自分の考えをまとめ、もの見方や考え方の広がりを見ることができるようにする。 	関 筆者の考えを自分の考えと結び付けて理解し、広がりを自覚している。（作文シート） 読 発表と自分の考えを比べ筆者の根拠に共感したり、批判したりしている。（相互評価表）

目標

自分の知識や経験と結び付けて文章を読み、ものの見方や考え方を広げようとする。
(関心・意欲・態度)

文章の展開を確かめ、筆者の考えや根拠を建設的に批判してものの見方や考え方を広げることができる。
(読むこと)

段落相互の関係を正しく押さえ、根拠の適否を考える際に活用することができる。
(言語についての知識・理解・技能)

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を正確にとらえて、説明文を読み取るようにしている。 筆者の考えや根拠を、そのまますべて理解するのではなく、自分の知識や経験と結び付けて、文章を読むようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめ筆者の考えと比べながら読んでいる。 文章の中心の部分と付加的な部分を読み分け、段落相互の関係を正しく押さえながら読んでいる。 筆者の考えや根拠に共感したり批判したりしながら読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係を正しく押さえ、根拠の適否を考える際に活用している。

本時の学習

ア 目標

グループで各自のワークシートを検討し、グループ案を作ることができる。

イ 展開

学習内容	指導上の留意点(・)と評価()
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>グループで各自のワークシートを検討し、グループ案をつくらう。</p> <p>2 前時までに作った自分の案をもとにグループ案を作る。</p> <p>(1) 各自のワークシートを評価する。</p> <p>(2) 各自のワークシートをもとに話し合い、グループ案をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、前時のグループでの検討をもとに各グループでの検討を行いグループ案をまとめる時間であることを告げる。 お互いのワークシートをもとに話し合い、グループとしての案を作り、発表するという見通しをもつことができる。 グループ案をまとめながら、自分のワークシートの検討も行うことを助言する。 相互評価用のワークシートを使い、書いていることについて認め合うことができる。 グループ案用のワークシートを配る。 司会と記録を決め、話し合いが円滑に行われるように助言する。 話し合った際に、特に、問題になった点を記録して発表できるようにする。 理由付けは以下の点に留意して行うようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もし自分が「心の豊かさ」を筆者の立場で述べるとしたらということを考える。 読者が納得したり信頼したりできるかについて考える。 もっと分かりやすい根拠はないかを考える。 今までの体験などから考える。 </div> 発表を行う者、掲示用資料を動かす者をそれぞれ決めるよう助言する。 発表時間は5分程度であることを告げる。
<p>3 できあがったグループ案をもとにどのような発表を行うか話し合う。</p> <p>(1) 発表時の役割を話し合って決める。</p> <p>(2) 発表のポイントを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下のポイントに注意して発表するよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> グループの中で一番問題になった部分はどこか。 問題になった部分に対するそれぞれの立場はどうであったか。(筆者と同じ、一部筆者と同じ、全く筆者と異なる) グループとしてその案に決定した理由は何か。 </div> <p>読 グループ内での相互評価をもとにグループ独自の発表案をまとめ、発表の準備をしている。 (ワークシート、相互評価表)</p>
<p>4 本時のまとめと次時の学習課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> おおむね満足できる状況にない生徒には、自分の考えをしっかりと伝えることを助言する。 十分満足できる生徒には、どのように発表したら分かりやすく伝わるのか考えるよう助言する。 グループでまとめた案について、全体での発表を行うことを伝え、意欲付けを図る。

(4) 授業の分析と考察

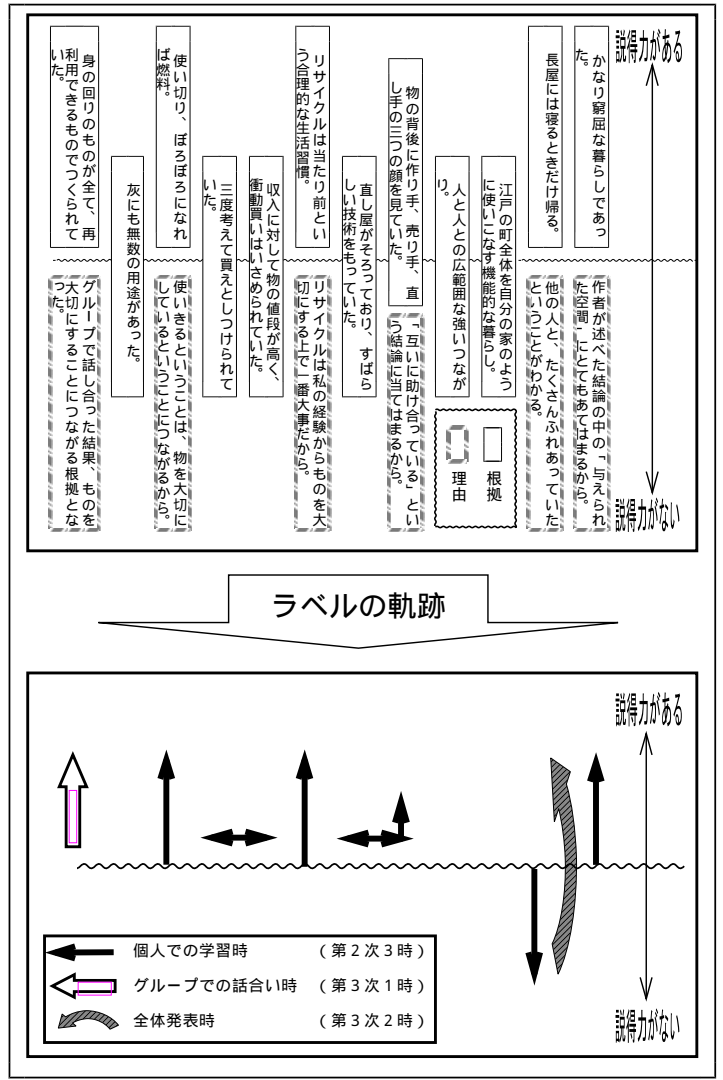
ものの見方や考え方を広げる手だてについて

ア ワークシートによる学習について

ワークシートを活用するにあたって、まず、最初に筆者が示している12の根拠にサイドラインを引き、ラベルにその根拠を記入した。その上で、表2の視点に基づいて、ワークシート上でそれぞれの根拠の適否を考え、上下左右に移動を行った。資料1は抽出生徒のワークシートの最終の形と抽出生徒が操作したラベル

資料1 抽出生徒のワークシートの最終の形とラベルの軌跡

軌跡のから は資料1上部の根拠 から を示しており、矢印は学習場面ごとの動きを示している。個人での学習の際には、の「長屋には寝るときだけ帰る」という根拠を下方に置いていた。その後グループにおける話合いでの「身の回りのものが全て再利用できるものでつくられている」という根拠を適切であるとした。最後の全体発表では下方に置いていた の根拠を「寝るとき以外は外で他の人とふれあっていたいから」という発言を受けて、適切な根拠であるとした。学習後の感想でも「自分で考えたり、友達の発言を聞きながらラベルを動かしたことで筆者の根拠が正しいものなのかどうかに対する考えがまとまってきた」と述べていた。



理由付けをしながらラベルを移動するという事は、生徒が筆者の根拠を批判的に見ているということであり、ラベルの移動から生徒のものの見方や考え方が広がっていく様子を見ることができる。

学級全体では、グループでの話合いの後、他の生徒の考えを参考にして根拠のラベルを移動していた生徒は*人であり、延べ20枚のラベルが移動されていた。全体発表において、他の班の発表を参考にして根拠のラベルの移動を行ったのは*人であり、延べ47枚のラベルが移動されていた。学

習活動全体を通して、表2の視点に基づいて理由付けをしながらラベルを移動した生徒は、図4のとおり、*人中*人であった。移動した理由は、「寝るとき以外は外で他の人とふれあっていたいから」など適切なものであった。視点から外れた生徒が1人いたが自分なりの理由付けをしてラベルを動かすことができた。また青色のラベルを使用して、適切と考える新たな根拠をあげた生徒は*人であった。

グラフは掲載せず

これらのことから、このワークシートの活用は、筆者の根拠に対して、理由付けをしながら適否を考える手だてとして効果的であったと考える。しかし、根拠を移動した理由を書く時間の不足やワークシートの保管の困難さなどがあった。これらについては、指導計画やワークシート自体の見直しをしていく必要があると考える。

イ 友達の考えと比較できる話し合い活動について

抽出グループが根拠の適否について考えていった際の発言を記録したものが表3である。どの生徒も、筆者の結論に基づいてそれぞれの根拠を考えていることが分かる。また「弱い」という理由はどこなのかをはっきりさせようとしたり、さらに検討が必要なものを取り上げたりする姿も見られた。こうしたグループでの活発な話し合いによって多くの生徒が気付かなかった理由にも気付くことができた。

表3 抽出グループの話し合いの様子

<p>C1: も弱いのかな。 C4: 僕は違うな。あれ、みんな真ん中なの。僕だけ違うのか。 C1: についてもっと意見をだしてみよう。 C4: <u>どこに弱い理由があるの?</u> C2: 作者の結論にしっかりとあてはまっているので弱くはないよね。 C1: 反対の人居ますか。 C3: 私も同じで、作者の結論に当てはまっていると思います。 C1: <u>もう一度みんなで確認しよう。上に上げた人? 下げた人?</u> C1: 理由も述べて発表してください。 C5: やはり、この話の中心はものを大切にするなので上にはいかないと思います。 C3: でも、結論の部分にあるので必要でないとは言いきれません。中間に置いておいたらどうでしょうか。 C2: 結論の中の与えられた空間に関する根拠はここだけなので上じゃないかな。</p>
--

グループでの話し合いにおける感想には「みんなの案と同じだと思ったら全然違った」、「わたしたちの班ではとてもいい意見が出たので、ぜひ、みんなに聞いてほしい」といったものであった。全体での発表で重要な根拠として最も多かったのは、六つの班のうち三つの班があげていた「人と人との広範囲なつながり」であった。また、弱い根拠として最も多かったのは、六つの班のうち五つの班があげた「長屋には寝るときだけ帰る」であった。しかし、一つの班がこの弱いとされる根拠を重要な根拠として説明した。重要とした理由は、「寝るとき以外は、外で他の人とふれあっていたいから」というものであった。この理由は

重要と考えた根拠「人と人との広範囲なつながり」に関連するものであり、発表会の後に「長屋には寝るときだけ帰る」という根拠をワークシート上で移動した生徒は*人であった。全体での発表後の感想は、「班ごとのいろいろな理由や意見などを聞き、納得して三つくらい移動した」や「自分の意見は変わらないが納得できる根拠の説明があった」といったものであった。

表4は、生徒が常に一定の視点に基づいて筆者の根拠について考えることができるように、表2の「学習を進める

上での生徒の視点」を示した相互評価表のコメント欄に生徒が記載した内容の一部である。「理由が分からない」、「理由が私とは違った」、「いろいろな意見があることがわかった」、「納得した」などがあり、友達の考えと比較して整理した様子分かる。また、図5は自分の考えと他の生徒の考えを、どれだけ比較したかという実態をまとめたものである。グループの話合いにおいて友達の考えに対する自分の考えを記入した相互評価表を見ると*人の生徒が全評価回数の75%以上において自分の考えとの比較を記載していた。

これらのことから、グループでの話合い及び全体での発表の場面を設けたことは、友達の考えと比較して、相違点や気付かなかった理由をとらえ、新たな考えをもつ手だてとして効果的であったと考える。しかし、全く比較していない生徒は*人おり、「ものの見方や考え方を広げる視点」を意識しながら相互評価を行う手だてについては今後さらに検討が必要であると考えられる。

ウ 自分の考えを整理する意見文を書く学習について

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
学習前	[Redacted]																													
学習後	[Redacted]																													

学習前の分析は図2の項目の人数と対応している。
表内の番号は、出席番号とは対応していない。(無作為)

筆者の根拠をもとに自分の考えを整理してわかりやすくまとめている。 筆者の根拠を取り上げて自分の考えを書いている。
筆者の根拠を単に羅列している。 ×根拠にふれずに感想や考えを書いている。

図6 生徒個々の学習前と学習後の意見文の分析

(学習前：平成*.*. *実施 学習後：平成*. *. *実施 **中学校第*学年*組*人)

図6は、学習前と学習後の意見文を比較した結果である。意見文の分析については、学習前の単元「未来を開く微生物」で書いた意見文の分析の際と同じ図6内の項目に基づいて行った。学習後の意見文では根拠を取り上げて自分の

表4 相互評価のコメント

<p>(グループの相互評価から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ の根拠を動かした理由が分からない。 ・ の根拠を動かした理由が私とは違った。 ・ を動かした理由がよく分かり、納得した。 <p>(全体発表の相互評価から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ の根拠はどの班も弱いとしているのに、6班だけは違った。いろいろな意見があることが分かった。 ・ はよい根拠だと思っていたが、違うという班の意見を聞いてなるほどなと思った。

グラフは掲載せず

図5 比較することに関する実態

(平成*. *. *実施 *中学校第*学年*組*人)

図8は、説明文を読む際の意識を、前出の図3で示した学習前の意識調査と同じ項目について、再度、学習後に聞いたものである。「筆者の根拠に対して疑問をもって読んでいるか」という問いに対して「はい」と答えた生徒は*人であり、学習前に比べて、*人増えている。「説明文の学習後、新たな考えをもつこ

グラフは掲載せず

とができたか」という問いに 図8 説明文を読む際の意識
対して「はい」、「どちらか (平成*.*. *実施 *中学校第*学年*組*人)

といえはい」と答えた生徒は*人であり、学習前に比べ*人増えている。

これらのことから、説明文を読む際に、筆者のあげている根拠の適否を考えたり、新たな考えをもったりしようとする意識を高めることにおいても本研究は効果的であったと考える。

5 研究のまとめ

中学校第1学年「江戸からのメッセージ」における建設的に批判しながら読む学習活動の工夫を通して、自分のものの見方や考え方を広げることができる国語科学習の指導の在り方について研究した結果、次のようなことが明らかになった。

- (1) 動きのあるワークシートを活用したことは、筆者の根拠に対して、理由付けをしながら適否を考える上で効果的であった。
- (2) ものの見方や考え方を広げる際に、話合いや発表の場面を取り入れたことは、他者の考えと比較して新たな考えをもつ上で効果的であった。
- (3) 筆者の考えや根拠をふまえて意見文を書くことは、新たな自分の考えを整理するために効果的であった。

6 今後の課題

本研究では、ものの見方や考え方を広げるために建設的に批判しながら読む学習を行ったが、今後、その発展として多くの情報から必要な情報を取捨選択し、自分の立場を明らかにする国語科学習について研究を深めていきたい。

< 主な参考文献 >

- 文部科学省「学習指導要領解説国語編」平成11年9月 平成16年5月一部補訂
文部科学省「読解力向上に関する指導資料」平成17年12月
田近洵一著「『読解力』向上の鍵は『思考』にある」国語教育 明治図書、平成19年2月